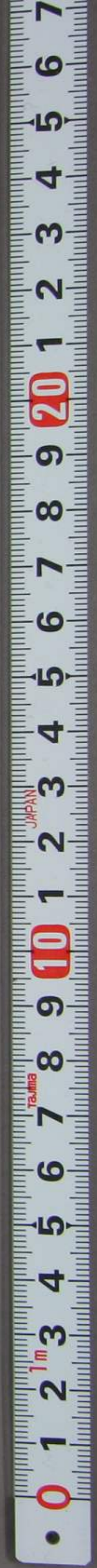


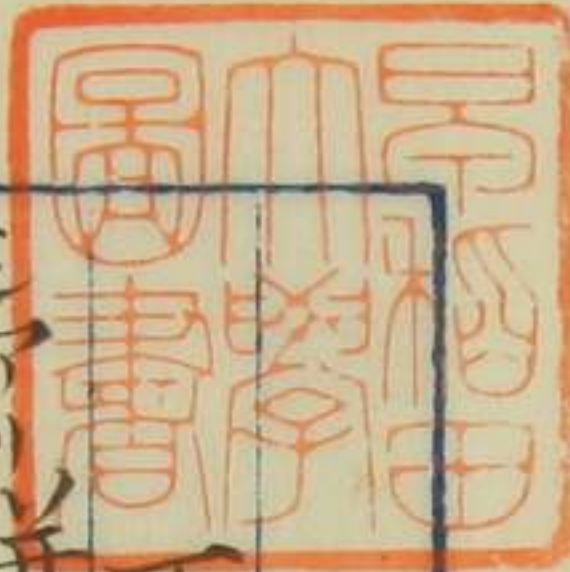


洋行年續書

3375



414  
A 4621



洋行午續書

大正十一年四月  
大隈英爵郵政贈

不肖ハ固ヨリ眼中ニ了ナキ者ナレモ嘗テ而高汰志  
 シリ併シ高汰者一種特別ナル者ニシテ如何ナル賢父君  
 子人ニテモ其術ヲ知ラスニテ行ハハ必定失作多シト聞キ  
 故何卒一度歐米ニ航海シ身ヲ豪商ニ皈シ實地  
 高汰苦辛檢究致シタクト種々量レモ悲哉信ニ寒  
 生ナレハ其費用ニ乏シクシテ宿志ヲ遂クルニ由ナシ常々知人  
 英米兩國ノ人ニ航海ナス好キ午續キヨリ依頼シ其作苦  
 蕉ナスヤ殆ド二年間明治九年春二月ハ如何ナル幸月  
 ツヤ三田福澤氏邸内ニ居留セシ英人アレキサンダルシヤウ氏  
 親友ナリ 同氏ニテ  
 御雇ノ期滿チ同氏飯國ナス際不肖彼レノ從者トナリテ

彼國之趣多事トナリ欣然行装ヲ調テ同年同月廿有  
 三日ヨリ以横濱港ヲ拔錨シ米國ヨリ向ケテ揚帆セリ同月十  
 一日國サシヲラシスコ港ヨリ無難入船ス同地ニ休息ナス四五日  
 間長キ海路ノ鬱鬱ヲ散シ再タビ途ニ就キ同列中諸所ノ  
 名所古跡ヲ探リ終ニ英國ロンドン府ニ達セシ時ハ凡ソ同月  
 下旬ナリ同府ニ着スルヨリ右ノ地ニシテトラス地極ハロンドンノ  
 氏ノ社ニ没身ス英人ワシントンムーン氏ノ海軍ヨリ以テ右ノ地ニシテトラス地極ハロンドンノ  
 此ノトキモモ活用ナル言語ニ熟セザル而已カ同府中ノ區名  
 西名ヲ知ラス新渡来ノ不用者ナレバ時大ニ當惑心致シ  
 候眼前視シ物ヲ告ケル能ワス耳聞ヘテ其意解ケス  
 信ニ龍身軟啞子ノ様ニ吾レ昔ナガラ馬鹿々々ク思ヒシ  
 ハ初午ノ一日過キ月往キ何ツカ風土ニ馴レ逐次ニ知人モ

殖住ハ都トハ好ク謂ツタ終ニ本國同様ノ心地セシ  
 同社ニ没身ノ初日ヨリ毎日社内ノ洒掃ノ瑛璃ノ  
 姿見等ヲ磨ガキ日没前ニ瓦斯燈ノ用意ナ  
 ザ然テ而擔當セシテ殆ド三ヶ月間其ハレヨリ一等ノ昇  
 階社中ノ小奴ノ見習ナス四ヶ月次ニ午伐扶助役ヲ  
 リシ一亦五ヶ月餘次ニ午伐事務ヲ勤メシ一亦  
 殆ド七ヶ月間次ニ書狀取扱局ヲ轉シ内外ノ得  
 意ヨリノ誂品何品トナク取調ナク落度ナキ様誂品  
 質ヲ見札ニ誂品ヨリ頼ミ來リシ定日ニラクシテ様  
 其ハクエ送リ達スル肝要トス次ニ社長等ノ側ニテ  
 テ彼レラノ命令ヲ奉テ諸方ノ製造所ヨリ買入  
 品ヲ請取方ニ卸シ仲間ノ取引等取扱ヒ荒増

同社中課實地見習仕候同社滞在殆  
ト三秋太ル明治十有二年十月社主且他友人  
達上別ヨ告ケ飯路佛國ハリス府エ趣ムキ同年  
季冬十一月廿九日飯朝仕候同社者同國  
ノ女帝ビクトリヤ始ノ皇族大臣參議方ノ御  
月達ナリ

明治十二年春二月

十日

京橋區築地采女町廿六番地  
松田弘道同居

栗屋道治

再并

餘白

農土内ニ作レハ高外ニ之レヨ高ナク國家ノ基本ニ无  
ト是レヨリ生ズ政事法律軍備其他ノ諸勢カ皆  
之レヲ保護ナス者ナリ既昔朝一新以台改正萬緒  
遂ニ著シリ今日ノ開化ニ達セシ朝堂諸大先生ノ尽  
力其ノ實効者大ナリ譽而讚歎スベシ然ルニ今昔朝  
ノ商人依然旧ニ馴ミ辛クシテ今日ノ糊口ヲ量ル而已  
ニシテ大ニ利潤アル自國ノ産ヲ海外エ輸送ナス道ヲ  
知ラス又學子バズ其ノ小膽ナル信ニ憐レムベシ京橋西間ノ  
衢街ニ奔ル商人ノ觀ルル中ハ乙ヨ欺ムキ乙ノ丙ヲ偽ワリ  
其ノ狡猾ヤ信ニ恐ルルヘシ高汰ノ道更ニタス横濱中ニ  
種々異名ナル仲間ヲ組シ他ノ商人ヨ束縛シ其クシキハ外  
人ト申シ合セ他人ノ倉庫ヲモ欺ムケシム其ノ數スナク

シトセス歎スヘキヲ大ナル者ナラシヤ有志ノ人々同心協力  
同港ニ新セシムル是レ祈ル

